

防災資機材の充実を図っているところであるが、津波対策としては用をなしていない。

今後においては津波発生時にも対応しうる資機材保管場所や資機材の配置について検討されたい。

また、住民参加の避難訓練の実施や恒常的な防災啓発など、町ぐるみで防災意識の高揚が図られるよう努められたい。



像が見えない中での造成



工事の発注が適当であるのか懸念される。

処理能力・水処理・既存施設の利用計画・搬入道路の安全対策など心配される部分も多々あり、建設場所である当町への事前説明はもとより、留萌南部衛生組合議会において特別委員会を設置した上で、懸案事項について検討すべきと思われる。

■生ごみ処理施設予定地の現況について

造成工事発注が8月、建物実施設計の発注が7月下旬ということであるが、環境影響調査の実施前、また処理施設の全体

■「ゆったりかん」内部改修工事・運営状況について

町直営によるリニューアルオープン後2か月が経過したが、改修工事により風呂、脱衣所は清潔

感を増し、休憩室が広くなるなど利用増進が期待される。

また、レストランに設置された小上がり・カウンター席が特徴的で、多様なニーズに対し効果的と思われる。収入面については、前年同期と比較すると上回っており、職員が努力が窺われ、今後良質なサービス提供に努められたい。



■堆肥製造施設の運営状況について

概ね順調に推移しており現状維持に努められた。ただ、搬入原料及び製品の一部が側溝に溜まっている状況が見受け

られるので、環境への影響がないよう施設内外の清掃に留意されたい。



■愛生園の現況について

改修工事が終了し快適な施設環境が整い、特に食堂が増築されたことにより、一度に食事提供できるよう改善された。待機者が数名いる状況であるが、増床について検討願いたい。



■「ゆうゆうそう」管理運営状況について

開設以来5年目を迎えたが、利用者数や収支は横ばい状態が続いており、今一度、他市町村の類似施設との対比や顧客層の把握など検証が必要と思われる。



加工施設については、利用希望団体が飽和状態となっており、利用者の自立に向けた方向性を見出す時期にきていると思われ、加工品開発・地産地消といった観点から、起業化支援策と相まった考察が必要と思われる。

あとがき

「三月十一日」。永く日本の歴史に刻印される日となることだろう。

幾多の生命が失われ、被災者、被災自治体、そして国民が一日も早い復旧復興へと意を一つにして前進している。しかし、永田町は政争に終始し、現状打開は遅々として一貫性に欠けている。

せめて地方行政・地方議会は「他山の石」として多くを学ばなければならぬ。

電力エネルギーも現状発電の政策・消費でよいのか、一人一人が考えなければならぬ。「正にこの時」の大きな問題である。(工藤)

●発行 小平町議会

●編集 議会広報発行 特別委員会

〒078-1330 留萌郡小平町字小平 町二一六

TEL (0164)

五六二二二一